

●事例紹介●

「大学コンソーシアムせと」と地域との連携

会沢 俊昭

(大学コンソーシアムせと事務局長)
南山大学 南山大学 大学事務部長

一 はじめに

瀬戸市は一三〇〇年におよぶ「せともの」の歴史を有する産業都市(人口一三万人)である。一九八〇年代以降の急激な円高、アジア新興諸国との価格競争による地域産業の空洞化・倒産・廃業等による地域計画の遅れがまちの荒廃を招き、まちの活性化が求められていた。

そのため、行政主導により瀬戸市の玄関口である尾張瀬戸駅前の再開発計画を何度か試みたが全て挫折してしまっただ。しかし、愛知万博の顔としての再開発を実現すべく、瀬戸市にある名古屋学院大学瀬戸キャンパスおよび南山大学瀬戸キャンパスの若手教員と学生、市民および市職員

(いずれも若手中心)から構成された「駅ビル検討ワーキンググループ」が設置された。(二〇〇〇年一月)

この検討グループでは、①市民の賑わいの拠点、②市民交流の拠点、③市民の学習活動の拠点の三つのコンセプトで議論され、その中から市民側は「個別大学の魅力を超えて地域の大学総体を市民の財産」と考えること、大学の教職員・学生側は「市民の目線で地域で行動することの大切さ」を確認し市民と大学との共同理解を得ることができた。その中から駅前ビルを中核施設とする「大学コンソーシアム構想」が提言された。(二〇〇一年一月)

この提言を受け二〇〇三年六月に瀬戸市と六大学(愛知工業大学、金城学院大学、中部大学、名古屋学院大学、名

古屋産業大学、南山大学)との間で「大学コンソーシアムせと」に関する包括協定書」の調印式が行われた。

一般的に大学コンソーシアムは、生涯学習・公開講座が中心であるが、「大学コンソーシアムせと」の特徴は、①地域活性化・都市再生の核づくりという視点から構想され(ツールとしての大学コンソーシアム)、②駅ビル検討ワーキンググループの提言を受け、活動の拠点を獲得ことができ、③行政が活動資金の二分の一を負担し、④行政組織の中に大学コンソーシアムせと事務局担当部署が置かれていることである。

二〇〇五年二月に尾張瀬戸駅前ビル(パルティせと)の竣工式があり、四月から正式な事業を開始した。

本コンソーシアムは一般市民のための生涯学習・公開講座等の事業も行っているが、地域との連携や学生によるまちづくりなどの事例を紹介する。

二 まちづくり施策協働プログラム

本プログラムは、コンソーシアムに加盟する大学の有する高等教育機関としての専門性と行政の施策がタイアップすることによって、地域へ還元・貢献する取組を実施し、よりよいまちづくりにつなげていくことを目指して二〇〇

五年度から事業を開始した。毎年五件前後の施策がマッチングし、協働作業を行っている。三月には成果報告会を行っている。

【事例 瀬戸市環境計画の見直し】

「瀬戸市環境基本計画」は、二〇一〇年度を最終目標年次として二〇〇〇年三月に策定された。この計画は、二〇〇五年度を目標として実施すべき当面の施策が示されているが、社会情勢等を勘案して適宜見直しものとしており、中間年の年を迎えるにあたり今後二〇一〇年までの施策の見直しを行うこととなった。

そこで、「環境政策」をテーマにしている南山大学総合政策学部の石川研究室で、プログラム案件の中で協力可能な案件を行政に提出し、調整の結果、本プログラムを二〇〇五年度からスタートさせることとなった。



施策協働P 環境

(一) 取組体制

瀬戸市環境課から提案された施策協働プログラムに対し、「環境政策」をテーマとしている南山大学総合政策研究科の大学院生および総合政策学部の石川研究室とで共同で実施することとなった。

(二) 二〇〇五年年度の取組

「瀬戸市環境基本計画の見直し方法の検討」をテーマに、どのような観点に着目して具体的に計画の見直しを進めるべきか、さらにはその見直し手法の具体策を検討した。また、見直し方法を提示するだけでなく、今後実際の見直しにあたって、石川研究室として策定に必要な資料提供等の支援を行うことを目標とした。

五月から九月にかけて石川研究室（大学院生、学部生）により、①現計画の問題点、課題点を抽出し、②他自治体による計画策定方法の事例整理とヒアリング調査（東海市役所、日進市役所、NPO法人にしん市民環境ネット、豊中市役所、日野市役所、長久手町役場）を実施し、③環境基本計画の見直しの背景整理（社会経済変化・政策変化）の調査が実施された。

その調査結果を一〇月に「瀬戸市環境基本計画の見直し方法（中間報告）」として行政に提出した。

さらに、一〇月から一二月にかけて①見直しの基本的視

点の整理、②見直しプロセスの検討、③見直し体制の検討、④見直しスケジュールの検討、⑤瀬戸市の環境特性分析（資料収集、データ分析）を行い、一月には「現計画見直しの方法（案）」（六頁）を提出し、翌年一月には「瀬戸市の環境特性分析（資料収集、データ分析）」（パワーポイント一五五頁）の発表会を実施した。

なお、以上のことを実施するにあたり、行政との打ち合わせを概ね月一回ペースで実施してきた。

行政側は石川研究室が提出した報告書に基づいて、行政による現計画を見直し、市民委員募集、体制の整備および準備作業を開始した。

(三) 二〇〇六年年度の取組

二〇〇六年度は「瀬戸市環境基本計画の見直し作業及び市民ワーキングの運営」をテーマとし、前年度の検討結果を踏まえた瀬戸市環境基本計画の見直し作業の一部を行うと共に、市民や事業者の声を計画に反映させるため、公募で選出された瀬戸市民二名による「瀬戸市環境基本計画の見直し市民ワーキング」が組織された。

この組織を支えるために行政が運営・進行を、石川研究室が運営補助を行うこととなった。このワーキングは月一・二回のペースで一八回も開催され、議論を深めていった。石川研究室は四・五月には「瀬戸市に関する環境情報」

を整理して市民委員に提示し、リーディングプロジェクト（LP）の議論をするために、全国の自治体における環境施策をとりまとめた「リーディングプロジェクト関連事例集」（八七頁）を作成・提供し、運営の補助役に努めた。

また、LPの議論に参加するにあたり、学生の立場から提供できるLPとは何かを考え、石川研究室の三年生および大学院生の約一五名で「南山FPプロジェクト研究会」を組織し、瀬戸市の自然散策スポットに焦点をあて、市民の方が地域の自然環境を知り、実際に訪れることで瀬戸市の魅力を再認識することを目的とした無料情報誌「clover ECO」（一六頁カラー版、五千部）を二〇〇七年一月に完成・配布した。

(四) 二〇〇七年年度の取組

二〇〇七年度は「瀬戸市環境基本計画の見直しに関する事業の具体化（環境情報の提供）」をテーマとして、環境情報の効果的な提供手段や提供資料の作成等を協働で進めているところである。

(五) 成果

本プログラムを実行することにより、①学生は、机上では学べない実際の政策を実感することができ、行政が抱える政策課題を深く理解することができた。②行政は、大学（学生）からの見直しの方法の提案を基に見直し方法を検討することができた。③大学は、計画見直しの参考となる

自治体へのヒアリング調査を通じて、環境基本計画見直しにあたっての先駆的な情報が独自に収集でき、大学としての知的所有が進んだ。

このような成果は、学生が自ら学ぶ瀬戸市という地域を深く知ることができ、さまざまな分野において瀬戸市で活動するモチベーションを高めることとなった。

上記の他に二〇〇五年度には「新エネルギービジョンにおける賦存量・期待可採量の検証および再調査」（環境課と愛知工業大学工学部 雪田助教・一柳教授）、「中心市街地の魅力発掘（瀬戸「まちなか」再生プラン）」（建築課と名古屋学院大学経済学部 古池教授）が実施された。

二〇〇五年度からは「三〇代女性に対する健康検査問診票の検討と検査結果の分析」（健康課と金城学院大学生生活環境学部 谷口・亀山准教授）が、二〇〇六年度からは「真空調理を組み入れた介護予防栄養教室の開催と栄養・ADL測定」（高齢者福祉課と金城学院大学生生活環境学部 森教授）、「三歳児から就学前までを一緒に保育する「異年齢保育」の検討」（こども家庭課と金城学院大学人間科学部 増田・南教授）が、二〇〇七年度には「せと・まるとミュージアム」中心市街地北側エリア観光資源活用に係る現況調査」（まるとミュージアム課と名古屋学院大

学人間健康学部 木村教授）が実施されている。

三 大学生によるまちづくり活動応援助成金

大学生が自主的にまちづくり活動に取り組む事例が近年増えている中で、コンソーシアム加盟大学においてもこうした公益性のある取組が増えている。これらの学生の活動を支援するために、二〇〇六年度から助成を開始した。

（助成総額六〇万円）

【事例 市民防災学習支援活動】

愛知工業大学の防災カレッジで学んだ学生（防災ボランティア・アイテックス）がその知識と成果を社会に還元するために、①パネル展示や家具転倒防止模型等の教材を開発し、②防災指導として、小学校や介護施設等の要請に応じて講師を引き受けることを目的とした活動である。

まず、パネル展示や家具転倒防止模型等の教材を開発し、各地で防災指導・PRに努めた。

（一）各地での防災指導・PR

教材作成に時間が取られ十分な防災指導・PR活動ができなかったが、瀬戸市では一回目として、パルティセト内で開催された「交流フェスタ二〇〇六」にブース出展し、

作成したパネル、防災用品を展示し、来場した親子に振動台による家具模型の揺れ方を体験してもらい防災の大切さについて理解してもらった。また、「紙ぶるる」という建物の揺れを手軽に体験できるグッズの配布も行った。

二回目として「消防の出初式」での防災PRコーナーへブース出展し、振動台の家具模型を、より家具転倒防止の重要性を理解しやすいように改良し、家具転倒防止の他、石油タンクが地震時に大きな被害を受けるメカニズムも体験できるようにした。

その他、幸田町防災フェスタ、豊田市梅坪台地区講演会に顧問の先生と共に参加し展示発表、豊田市猿投北交流館主催子ども防災勉強会に展示、体験コーナーを担当した。

（二）成果

これらの市民防災学習支援活動を通して得た経験をもとに、地震のしくみについて子どもでも理解できるよう簡単な内容をパワーポイントで編集の上パネル化し、教材として利用可能なものにした。また、粘着性パッドを用いた家具転倒防止実験が子どもたちに最も関心の高いことが分かったので、試作を繰り返して、工夫を重ねて模型モデルや手動振動台を開発し、二〇〇六年度の教材を作成することができた。

（三）二〇〇七年度の活動

昨年度に開発した模型（教材）を活用し、瀬戸市で開催

される催し物へのブース参加や、大学での親子教室等を開催し、子どもを中心とした市民への地震に関する知識の普及活動を通して、多くの人に防災に関する知識を広め、災害による被害を最小限に食い止めるための防災ボランティア活動を行っている。

前記の他に、二〇〇六年度には「万博が与えた影響によってその他の市と瀬戸市で環境意識は違うか」（名古屋産業大学Myバック向上委員会）が活動した。

二〇〇六年度からは「若者とまちをつなぐまちづくりフリーペーパー『BRIDGE』発行」（南山大学Have a Nice City）が、二〇〇七年度には「生ゴミに学ぶエコサイクル（電気を起こそう！）〜生ゴミは『ゴミ』じゃない！〜」（名古屋産業大学生物部）、「地域住民の消費者教育を目的とした情報提供」（金城学院大学中森研究室）、「Reseto」（金城学院大学写真部）＝写真による瀬戸市の魅力



学生まちづくり活動応援助成金

発信）が活動している。

四 小中学校との連携

小中学校の教育現場からの要望にこたえるために瀬戸市教育委員会とも協力し、二〇〇七年度からスタートした。

（一）小中学校教育現場支援事業

この事業は、大学コンソーシアムせとにおける地域への貢献事業として、将来を担う小中学生に高等教育機関として専門性豊かな教育を提供し、子どもたちの興味、関心を育むと共に、小中学校現場教員では実施することのできない授業を行い支援することにより、豊かな教育を提供することを目指している。

教育現場から支援してほしいテーマを調査し、その内容に対応できる大学とのマッチング作業を行い、教員（学生）が一〇の小中学校に出向き、次のような七つのテーマで実施しているところである。

- ① 環境学習（一校）、② コンピュータ教育（一校）、③ 国際理解教育（六校）、④ 特別支援教育（一校）、⑤ 体験学習（二校）、⑥ 敷地環境整備（一校）、⑦ 部活動（一校）

(二) 教育現場問題研究会・学習会

小中学校教育現場支援に関する調査を行った際に見えてきた教育現場の諸問題について、小中学校の教員やPTA保護者等を対象に学習会等を開催し、課題等の問題解決に取り組む事業である。

「特別支援教育」として、瀬戸市教育委員会主催の小中学校教員対象の「ティーチャーズアカデミー（勉強会）」において、「気になる子への心の援助」をテーマに金城学院大学人間科学部 川瀬教授の指導により具体的な対応の仕方の研究会を開催した（二二八〇名参加）。

また、「国際理解教育」として、今後実施される小学校での英語授業を睨み、教員対象に模擬授業等を、「情報化教育」として、教員のパソコン操作のスキルアップのための学習会を開催している。

五 ジュニアセミナー

小中学校から要望の多い理科実験について、大学の施設を使って子どもたちに理科実験の楽しさを伝えることを目的に二〇〇六年度には「宇宙実験体験教室」、「紙の橋を作り、強さを比べよう」、「雷にさわるとどうなる？」など五つのテーマが開催され延べ一二三名が参加、二〇〇七年度

には「海の波の不思議なおもしろさ」と、「作ってみよう、電池とロウソク」をテーマに二回開催され、延べ三〇名の参加があった。共に中部大学（春日井市）で開催され、教員・学生の指導により楽しい理科実験を子供たちに伝えることができた。

なお、このジュニアセミナー参加の子どもたちの送迎には、瀬戸市が役所のバスを提供している。

六 おわりに

大学コンソーシアムセとは発足後まだ日が浅く、試行錯誤しているところであるが、本コンソーシアムの特徴である「地域活性化・都市再生の核づくり」（ツールとしての大学コンソーシアム）という視点からの事業展開を進めて行きたいと考えている。



ジュニアセミナー